

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

「しごと」×「ひと」新発田市魅力創生プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

新潟県新発田市

3 地域再生計画の区域

新潟県新発田市の全域

4 地域再生計画の目標

新発田市の人口は、平成7年（1995年）前後に106,556人とピークを迎え、その後減少傾向にあります。この減少傾向の中で、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口」によれば、令和22年（2040年）には71,988人になると推計され、その推計値から令和42年（2060年）には51,571人になると予測されます。このような人口減少の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある新発田市を維持していくため、あくまでも「10万都市新発田」にこだわって施策を展開します。

新発田市は、城下町400年の風情と文化を色濃く残すまちです。北西には白砂青松と形容される美しい海岸線、北東には日本小さい山脈「楡形山脈」や日本200名山に数えられる霊峰「二王子岳」がそびえるなど、海から山までの豊かな自然に恵まれています。また、市内には大学、短期大学校、各種学校に加え、6校の高等学校があり、教育環境も充実しています。さらに、全国屈指の月岡温泉には多くの観光客が訪れています。これらの豊富な地域資源をバランスよく連携した多面的機能の強化を進め、地域資源を当市の最大の強みとした施策を展開します。

また、新発田市は、県都新潟市に隣接し、首都圏からは高速道路網と新幹線網でつながっています。また、新潟の空の玄関口「新潟空港」と海の物流拠点「新潟東港」にも近接するなど、経済視点からも恵まれた立地条件を有しています。この経済的立地条件のメリットを最大限に活用して施策を展開します。

施策を効果的・効率的に実施していくためには、市民や関係団体等と連携して進めていくことが重要です。また、近隣の自治体と連携して、広域的な総体として魅力ある圏域を形成していくことで、大都市圏への人の流れを変えていく施策を展開します。そこで、子どもたちの未来のために、「魅力をつくる」「魅力をはぐくむ」「魅力をつなぐ」というコンセプトのもと、次の2つの基本目標に基づいた取組を行います。

- ・基本目標1 【しごとづくり】新発田の特色を活かした産業の振興
- ・基本目標2 【ひとの流れ】地域資源・魅力を活かした交流から定住へ

【数値目標】

5-2の①に掲げる事業	KPI	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	経営20ha以上の農地所有適格法人数	46法人	48法人	基本目標1
	生産年齢人口一人当たりの市内総生産額	5,805千円	5,955千円	
	民間事業所の従業者数	38,081人	38,580人	
	新規求職者に対する自己都合による離職者割合	37.4%	36.9%	
	観光入込客数	265万人	268万人	
イ	純移動数(転入-転出)	▲188人	▲88人	基本目標2
	駅前エリア来訪者数	2,000人	9,000人	
	民間主体のイベント実施割合(行政単独開催/単独開催以外)	79%	84%	
	あやめバスの年間利用者数	77,850人	79,150人	
	移住体験・交流事業を利用した人	77人	177人	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

「しごと」×「ひと」新発田市魅力創生プロジェクト

ア 「新発田の特色を活かした産業の振興」事業

イ 「地域資源・魅力を活かした交流から定住へ」事業

② 事業の内容

ア 「新発田の特色を活かした産業の振興」事業

市の基幹産業である「農業」をはじめ、各産業の持続的な発展のため、新たな雇用創出に向けた企業誘致や創業支援、既存企業等の強化を図るとともに、産学官のネットワークを構築し、産業の強化・育成や雇用環境の充実を図る。

(ア) 経営基盤の強化による産業の育成

中小企業への融資等の支援、企業間連携による企業課題の解決、農業者の法人化、農地集約や園芸を振興する事業等

(イ) 企業立地の推進

市外企業の誘致や市内企業の設備投資を推進する事業等

(ウ) 創業支援、事業承継の促進

創業を目指す個人事業主が創業しやすい環境を作るとともに、移動販売車等の新たな形態の創業を推進する事業等

(エ) 雇用のマッチング・人材育成

近隣自治体、関係団体等と連携した雇用の確保と人材育成を推進する事業等

(オ) 誰もがやりがいを持って働ける多様な環境づくり

女性、高齢者、障がい者、外国人等の多様な雇用創出、働きやすい

職場環境を整備する事業等

(カ) 競争力の強い地域ブランドの構築

高機能性食品の生産拡大、月岡温泉の環境整備や国内外への物産の販路を拡大する事業等

イ 「地域資源・魅力を活かした交流から定住へ」事業

城下町新発田が育んできた「自然資源、歴史・文化資源、観光資源」を活かしながら、市民や企業等との連携により、新発田市ならではの新たな魅力を創出し、将来的な定住につながる交流人口、関係人口の拡大を図る。

(ア) 観光客・来訪者に楽しんでもらえる仕組みづくり

外国人観光客をはじめとする観光客の誘客と受入環境整備、本市出身で近代日本を代表する実業家・大倉喜八郎が建築した別邸「蔵春閣」が本市に移築・復元されることにともなう周辺環境を整備する事業等

(イ) スポーツ・文化資源を活用したツーリズムの推進

宿泊施設と連携した各種大会等の誘致や体育施設等の計画的な整備改修を進める事業等

(ウ) 中心市街地の賑わい創出

空きビル・空き店舗を活用したリノベーションや拠点施設を活用した地域活性化の推進、遊休地を活用し、コンテナを活用した集合店舗等の実証実験、空きスペースの緑化やベンチ等の設置などによる居心地の良い空間・環境整備やまちづくりを推進する統一ロゴマークなど、まちの魅力を向上させる取組、買い物弱者を支える公共交通手段の整備・充実、利便性の高い待合所などの整備、地域の実情に応じた公共交通ルートを整備する事業等

(エ) 住みたくなる環境づくり

移住体験ツアーの開催、住宅取得等の支援、小中学生への出前授業や高校、大学生とまちづくり推進することにより郷土愛を醸成する事業等

(オ) 関係人口の創出

「蔵春閣」が移築・復元される新発田駅前エリアにおいて、周辺施設との連携によるエリアマネジメント、移築・復元過程の映像化、建

築見学ツアーの開催、工事用囲いの有効活用やシンポジウム等の開催による市民意識の醸成を、エリアマネジメントを行う民間パートナー法人と連携して推進する事業等

※ なお、詳細はしばた魅力創造戦略（まち・ひと・しごと創生新発田市総合戦略）のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

150,000千円（2020年度～2024年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

【評価の手法】

新発田市未来創造検討会議（産官学金労言の代表者で構成）により、KPIの結果について検証を行い、改善点を踏まえて次年度以降の事業内容・手段を改善・改良していく。

【評価の時期及び内容】

毎年度の事業が完了した後、翌年度6月までに新発田市未来創造検討会議において、担当者から資料説明、質疑応答により効果検証を行い、次年度以降の取組方針について検討する。

【公表の方法】

検証後、速やかに新発田市公式ホームページ上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで

5-3 その他の事業

該当なし

6 計画期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで